

酒類製造業における死亡災害事例（1999-2021年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
2018	11	14 ～ 15	被災者は、営業車を運転し自動車道上り線を走行していたところ、トンネル内となる上り35.7キロポスト付近にて、走行車線左側縁石に接触した。当該箇所は片側1車線道路であり、左側縁石に接触した反動で対向車線と区切るデリネーター付近にて制御不能となったところ、対向車線を走行してきたダンプトラックと衝突し、運転していた被災者は多発外傷で死亡したものの。	231	17	50 ～ 99
2016	3	7 ～ 8	酒醸造工場の仕込蔵において、被災者が開放タンクにて醸造過程の醪（もろみ）のサンプル採取の為、タンク（高さ約2m×直径約2m）の外周に木製ハシゴを立て掛け、攪拌等作業を単独で行っていたところ、内部に転落した。その後、深さ約1.5mの醪にうつ伏せ状態で浮かんでいるところを他の作業員に発見された。	419	10	1～ 9
2016	4	15 ～ 16	労働者2名がタンク周りに設置された木製の足場（高さ約1.7m）上で酒造で用いるタンクの上部に保温用のシートを取り付ける作業を行っていた際、シート固定用のロープを締めていたところ、当該ロープが切れ、ロープを引っ張っていた労働者1名が、勢い余って作業足場上から床面へ墜落した。	411	1	1～ 9
2014	10	16 ～ 17	ワゴン車で事業場に向け走行中、交差点に進入したところ、トラックが側面に衝突し、ワゴン車に乗車していた6名が被災し、うち被災者1名が死亡した。	231	17	10 ～ 29

2013	1	12 ～ 13	清酒のビン詰め工場において、スーパ（空ビンを送るための自動搬送装置）が待機状態で停止していた際、近くでスーパの運転監視をしていた被災者が、高さ約2mのスーパに上がり、何らかの確認作業を行っていたところ、スーパが再起動したため、スーパと支柱との間に頸部を挟まれて死亡した。	229	7	50 ～ 99
2011	8	10 ～ 11	被災者は一人で乗用形4輪芝刈り機を使用して敷地内緑地の草刈り作業を09:00過ぎから行っていた。10:00から10:40まで事業場の食堂で休憩した後、草刈り作業を再開したが、昼食時間になっても食堂に現れなかったため、不審に思った同僚3名が探したところ、敷地の土手から3.4m下の農道に転落した当該芝刈り機の下敷きになった被災者を発見した。	169	1	1～ 9
2011	11	12 ～ 13	被災者は午前中に同僚と製品を配達し終え、事業場に戻ってきた後、午後の配達分の準備を行っていた。その後、中2階へ上るための梯子の下に、意識不明で倒れている所を同僚に発見された。意識が回復しないまま、12月3日に死亡した。	999	99	1～ 9
2009	1	19 ～ 20	被災者は、踏台に上がり酒母タンク内の仕込みの状況を確認していたところバランスを崩し醸造タンク内（タンク内もろみの深さは約1m）に転落して被災した。	418	1	1～ 9
2008	3	11 ～ 12	ぶどう畑にある消火用ホースを地中に埋設する作業において、被災者は、地中から出てきた石を不整地運搬車で運び、石捨て場に捨てる際、未舗装の農道から石捨て場の1.7m下の農道に転落して不整地運搬車の下敷きになった。	229	1	30 ～ 49
2008	2	8 ～ 9	午前6時からこうじ作り作業を被災者を含む3名で予定していたが、予定の時間に被災者が作業場に姿を見せず、午前7時30分からの朝食にも来なかったため工場内を捜したところ、仕込室のもろみの入ったタンクの中に転落しているのが発見された。	714	12	10 ～ 29
		13	地ビール製造工場内でろ過器の部品洗浄作業を行っていたところ、隣室に設置されていたビール貯蔵用タンク（外径約1.3m、高さ約2.5m、内容積約			1～

2008	1	～ 14	3,000リットル) が破裂し、タンク本体が壁を突き破って作業場所に飛び込んできたため、タンクと部品洗浄用の水槽の間にはさまれた。	391	15	9
2007	3	～ 11	製造蔵 2 階の醗酵室において醸造中の仕込タンク開口部の転落防止枠がはずされた状態で高圧洗浄機のホースがタンク内に入っているのを不審に思った同僚が、タンク内部で浮いている被災者を発見した。	418	1	～ 29
2007	2	～ 11 12	被災者は、酒造の作業場内の「むろ」と呼ばれる麴菌の発酵を行う室内で、酒造りに使用する麴づくりを同僚 1 名と行っていた。前記の作業を終えて、むろの内部で休んでいたところ、気分が悪くなり、むろの出入り口付近で意識を失い倒れた。	921	90	1～ 9
2007	3	～ 3 4	日本酒の品質管理で、醪（もろみ）の発酵状況確認のため、タンクに移動はしごを立て掛けタンク上部のマンホールから柄杓で漏斗（ろうと）に試料（醪）を採取するとき、タンクの内部に墜落した。	391	10	～ 29
2007	2	～ 7 8	被災者は、はしごに上り、仕込みタンクのもろみをかい棒で攪拌中、バランスを崩し、タンク内に転落した。	371	1	1～ 9
2006	2	～ 8 9	工場に隣接した宿舎に住み込んで働いていた被災者が、精米機の調子を点検するために宿舎の階段を下りる際、転落した。同僚が出社した時階段下で倒れているのが発見された。	413	1	～ 50 99
2005	10	～ 8 9	ドラムの米をロータリーバルブでタンクに移送する作業中に、回転中のドラム本体とホッパーとの隙間に挟まれた。	165	7	～ 10 29
2005	3	～ 19 20	事業場に隣接している寮で入浴中、浴室の洗い場の窓から4m下の地面に墜落した。	418	1	～ 30 49
2005	3	～ 6 7	仕込倉内にある円筒形醸造用タンク（直径2.3m、高さ3m）上において、分析用の試料を採取しようと 1 人で作業していたところ、タンク開口部(直径75cm)から内部に墜落し、溺れた。	911	10	～ 10 29

2005	9	7 ～ 8	自転車で横断歩道を横断中、乗用車に激突された。	231	6	～ 299	100
2005	11	11 ～ 12	もろみが入った仕込みタンク（直径2m、高さ1.8m）の蓋開口部（直径75cm）から、タンク内に誤って転落した。	391	10	～ 29	10
2005	3	13 ～ 14	国道を走行中に、被災者が運転していた軽トラックが対向車線にはみ出し、対向してきた大型トラックと正面衝突した。	221	17	～ 29	10
2004	1	16 ～ 17	冷水が入ったタンクの中に、タンク上部（木製の蓋でタンク上部の半分は覆われている）から転落し死亡した。	391	10	～ 29	10
2004	9	10 ～ 11	酒の貯蔵タンク内の洗浄、殺菌を行うため、タンクの天井部周辺で作業中、何らかの原因によりタンク天井部に掛け渡してある歩み板からコンクリート床面に墜落した。	416	1	～ 29	10
2003	6	16 ～ 17	もろみ中継タンクの洗浄作業を行う前に、タンク内をのぞいたときに深さ3.4mのタンク内に墜落し、残留していたもろみを吸入して窒息死した。	391	1	～ 99	50
2003	1	8 ～ 9	酒造工場内で、お湯の入った釜に酒を通す蛇管を挿入していたところ、4人のうちの1人が頭から釜に落下し、全身火傷を負った。	341	11	～ 29	10
2002	11	13 ～ 14	フォークリフト運転技能講習資格取得のため、社内研修を工場内ストックヤードで指導員から受けていて、フォークリフト（最大荷重1.5 t）を運転してストックヤードと構内道路の境界部分の段差（約30 cm）を避けようと左に急転回したところバランスを崩し横転し、フォークリフトのヘッドガードの下敷きとなった。	222	1	～ 99	50
		2	醗酵室で麴を混ぜる作業に従事する者が来ないので敷地内にある住込み部				10

2001	12	～	屋(木造2階建倉庫の2階)に様子を見に行ったところ、自室から外部に通じる階段下の土間で意識不明の状態で見つかった。	413	1	～	29
2001	10	～	10 梅酒製造工程でタンク内の梅酒をいったん別のタンクに移動し、再度元の 11 タンクに戻す作業の準備作業中、高さ2mのタンクに架けられた移動梯子 (長さ2.7m)によって作業中梯子が滑り、梯子とともに墜落した。	371	1	～	100 299
2001	7	～	16 焼酎の原料(エタノール)が貯蔵されていたタンクの上で、防犯用セン 17 サーの設置台を取り付ける作業をティグ溶接で行っていたところ、タンク が爆発し、タンク上部とともに吹き飛ばされた。	321	14	～	10 29
2001	1	～	13 燃料ボンベ置場において、棚から空ボンベを地面に降ろす際に、フォーク 14 リフトが後進のためフォークリフトとボンベ置場の棚との間に挟まれた。	222	6	～	50 99
1999	8	～	17 18 ワゴン車で国道を走行中、対向のトラックに衝突した。	231	17	～	10 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_30.htmlに戻る。